

本音の コラム



さいとう みなこ
齋藤 美奈子

関西などに住む水俣病未認定患者128人が国や熊本県、原因企業チッソを相手に起こした集団訴訟で、9月27日、大阪地裁は全員を水俣病と認定し、計約3億5千万円の賠償を命じた。原告側の全面勝訴。控訴は絶対しないしてほしい！

とはいえ、若者たちにはぴんと来ないかもしれない。水俣病が公式に確認されたのは1956年。67年前の話だ。

NHK熊本放送局のウエブマガジン「クマガジン」で興味深い記事を読んだ（「水俣病に若い世代はどう向き合う？」2023年7月31日）。

神奈川県出身、熊本放送局に赴任して3年目の

水俣の今を知る

アナウンサーが県外の友人たちに質問すると…。「まだ水俣病ってやってるんだ」「歴史の教科書では見たけど」「もう患者は増えないのに、なぜ伝えるの?」。公害病については小学校5年生の社会科で一応習うはずだけど、特別に興味がないければ「学校で習った昔の出来事」なのよね。

そこでお知らせ。10月7日～11月14日、福岡市の福岡アジア美術館で、水俣病の歴史や被害を伝える「水俣・福岡展2023」が開催される。展示のほか休館の水曜以外は映画の上映や講演が毎日あって、目を見張る充実ぶりだ（ちなみに私も11月に登壇予定）。

先の裁判でもわかる通り水俣病は現在進行形である。私もこの機に勉強したい。みなさまもぜひ九州へ。（文芸評論家）